

# 令和3年3月4日 本会議 一般質問

議員個人がそれぞれの関心事について質問

## ワクチンの安全・迅速な接種と感染対策、同時並行で

**質問** 新型コロナのリバウンド、第4波の感染拡大に備え、ワクチン接種の迅速な実施が求められる。また、ワクチンの有効性や副反応などの情報を公開し、県民の不安を払拭すべき。

ワクチン接種と感染対策を同時並行で進め、新型コロナのリバウンド(再拡大)に備えていく。

県内の医療従事者約4万人へのワクチン先行接種は20%(4月)に止まる。65歳以上高齢者も不安がある。



(録画中継 QRコード)



**菅沢裕明** (立憲民主党・県民の会)

**回答(厚生部長)** ワクチンの安全性について、十分理解をいただけるよう専門的な相談窓口を設置、副反応に関する情報など速やかに提供していく。ワ

## 富山県発の水素発生装置開発ベンチャーの支援について

**質問** 世界初の低コスト水素発生装置開発に成功した高岡市のベンチャー企業を、カーボンニュートラル等の観点から、オール富山で強力に支援すべき。

ていきたい。

**回答(知事)** カーボンニュートラルを目指す上で重要で、新たに「とやまベンチャービジネス支援協議会」及び「創業・ベンチャー課」を設置し、産学官金一丸となってオール富山で応援する動きを加速し

歴史的な転換点になり得る富山発の技術を、オール富山で支援し、世界に浸透させる基礎としたい。



(録画中継 QRコード)



**山崎宗良** (自由民主党)

## マイクロツーリズムの推進について

**質問** インバウンド需要が見込めない中、県内観光の取り組みを充実させるべきと考えるが、所見を問う。

ん自らが観光地の魅力をSNS等で発信していただくための事業を予定している。

**回答(知事)** コロナ禍において、これまでもマイクロツーリズム(県内での宿泊や観光)を推進してきたが、新年度においては、北陸3県が連携して近隣県民向けの宿泊割引を実施するとともに、県内観光の体験をもとに、県民の皆さ

県民が富山の良さを認識することが必要で、県内観光の推進は、素晴らしさを再発見する絶好の機会と思う。



(録画中継 QRコード)



**瘡師富士夫** (自由民主党)

## 高病原性鳥インフルエンザ養鶏農家経営支援等

**質問** 対象の養鶏農家で多くの鶏が殺処分された。大きな被害が発生した。手当金の交付や資金調達支援のスケジュールや方法など対応を問う。

添いながら、きめ細やかで迅速な対応に努める。

**回答(知事)** 原則、国が手当金全額を養鶏農家に支払うことになっている。県独自として必要な債務負担行為の設定を補正予算に盛り込む。また、国や農協、金融機関等と連携し、県内養鶏農家に寄り

養鶏農家の経営やなりわいが気にかかる。国にはいち早い対応を。県にはさらなる支援策を期待する。



(録画中継 QRコード)



**武田慎一** (自由民主党)

## 地元で泊まろう!県民割引キャンペーンについて

**質問** リピーター確保につながるため、次回使える割引クーポン券の発行等を検討できないか。また、宿泊施設の固定費に対しても支援が必要ではないか。

融資も拡大され資金繰り支援が行われている。国に対しても観光関連事業者等に対する手厚い支援を要請している。

**回答(観光・交通振興局長)** 次回の来県時に利用できる特典も検討し、富山県ファンやリピーターの確保に努める。光熱水費等は、支払い猶予等の措置が講じられているほか、県制度

宿泊施設を営む県内の旅行関係者の方々からは、なるべく細く息の長い事業にしてほしいとの要望がある。



(録画中継 QRコード)



**庄司昌弘** (自民党新令和会)

富山県から先進的な事例が生まれたいいな。

これからの未来は水素エネルギーの社会になるかも?



# 令和3年3月8日 本会議 一般質問

## 県立学校に専任の「ICT支援員」の配置を

**質問** 県立学校では、今年夏ごろまでに生徒全員に1台ずつタブレットが配備される予定。操作を先生たちだけに任せるのではなく、各学校にICT支援員の配置が必要。どう取り組むのか。

**回答(教育長)** 各学校で先生たちから2~5名を「ICT教育推進リーダー」として選定し、トラブル対応や教材提供などを担当していただく。新年度は「GI

GAスクールサポーター」を適宜派遣し、研修やトラブル対応などにあたりたい。

新たなタブレット配備が教職員の負担増にならないように、各学校に最低1人は担当者専任で配置すべきです。



(録画中継 QRコード)



火爪弘子(日本共産党)

## ワンチーム連携推進の場で“なんでも相談支援”の協議を

**質問** 地域共生社会の実現に向けて「断らない相談支援体制」が必要。氷見市の“なんでも相談”は全国でも先進的事例として有名だ。ワンチーム連携推進本部会議のテーマに「断らない相談支援」を取り上げ、積極的に県内市町村に展開していくべきと考えるが、どうか。

**回答(知事)** 先進的事例を広域連携で横展開していくことが会議の大きな目

的なので、氷見市の意欲的な取り組みも含め、新たな話題提供をしていきたい。

地域共生社会の実現には“地域を耕す”が必要。県の福祉推進顧問大橋謙策先生の見識もぜひ活用すべきと考える。



(録画中継 QRコード)



藤井大輔(自由民主党)

## 高齢化社会の中で、車に依存しない鉄軌道の整備が重要。

**質問** 鉄軌道ネットワークを全国のモデルとなるべく、さらに進化させるためにどのように取り組むのか。

**回答(知事)** 鉄軌道を中心に、バス等の公共交通の接続を考慮した交通網の整備をすることは、持続可能な地域公共交通のために重要である。ダイヤの見直し等により、利便性が向上するよう、市町村や関係事業者と連携して取り組んでいく。

あいの風とやま鉄道の新駅の設置や、既存駅の改修を進め、駅を中心とする地域交通網の整備に取り組む必要がある。



(録画中継 QRコード)



五十嵐務(自由民主党)

## 富山の学校教育を変える国際バカロレアの認定・導入へ

**質問** 国際バカロレア資格導入への研究をどのように進め、今後どのようなスケジュールで進めていくのか、問う。

**回答(知事)** 昨年の11月時点で認定校は全国で54校(うち公立学校は7校)。他県の公立高校に、導入の経緯や現在の状況などを聞き取り調査した。新年度は他県の導入校視察、教職員がワークショップ研修に参加し研究を

深める。文部科学省では、候補校認定から授業実施までに2、3年かかると見込む。

2019年2月議会で提案し、2年が経過。知事の公約でもある重要な教育政策。子どもたちの1年は待たなし!



(録画中継 QRコード)



平木柳太郎(自由民主党)

## 子どもの心を診る拠点病院の整備について

**質問** 発達障害など子どもの心の診療を担う人材が不足している。専門医養成も含め、虐待によるトラウマの治療や家庭支援等を含む包括的な診療拠点を整備すべきではないか。

**回答(知事)** 専門医による発達障害の支援ニーズは高まっている。新年度、「富山こども病院」を含めた小児医療等提供体制について検討会を設置し、

子どもの心の診療の在り方などについてもこの場で議論頂きたいと考えている。

成育支援を含む包括的な子どもの心の診療拠点があれば、奥田交番のような事件は防げるはずだ。整備は急務。



(録画中継 QRコード)



種部恭子(自由民主党)

紙の教科書がなくなったらランドセルもなくなるのかな?

薄型・小型化したおしゃれなランドセルができるかもよ。



# 令和3年3月10日 本会議 一般質問

## ワクチン接種記録システムの適切な運用について

**質問** 新型コロナのワクチン接種にあたっては、接種情報をしっかり把握する必要があることから、国が新たに導入する接種記録システムの適切な運用が重要であるが、どのように取り組むのか。

**回答(厚生部長)** ワクチン接種では複数のシステムが稼働することになっており、これらのシステムの情報連携が重要となる。市町村や医療機関の現場

が混乱することなく、正しく運用できるようあらゆる機会を通じて国に要請していく。

感染収束の鍵を握るワクチン。公明党は現場の実情に応じた安全安心で円滑な接種体制構築を推進します。



(録画中継 QRコード)



吉田 勉 (公明党)

## 除雪体制の強化について

**質問** 除雪オペレーター確保育成、除雪体制の強化にどのように取り組むのか。

**回答(土木部長)** 除雪機械を借り上げる場合の委託経費について、稼働状況に関わらず必要となる経費を固定費として支払うよう見直し、今年度からは機械損料のうち償却費の半分を県が支払うよう見直し、負担軽減に努めた。

さらに、オペレーター確保のため、免許の取得費用等の補助率を引き上げ、支援を強化する。

将来にわたり安定的な除雪体制を維持するために、県として最低保証制度を創設すべき。



(録画中継 QRコード)



安達孝彦 (自由民主党)

## 水と緑の森づくり税の実績と課題について

**質問** この税は、来年度、課税期間の最終年度を迎える。実績と課題を踏まえ富山の森に元気を取り戻すための決意を知事に問う。

**回答(知事)** 13年間で里山林整備や杉と広葉樹の混交林整備、優良無花粉杉「立山 森の輝き」の植栽に加え、県民参加の森づくり活動へ延べ14万人の参加など着実に成果を上げてきた。一方、将来

の里山林の維持管理を不安視する地域の増加などの課題もあり、県民の理解が得られるなら、税の延長をお願いしたい。

中山間地域での森の再生に向けた取り組みを強化しなければならない。サポートセンターを基盤にして取り組みたい。



(録画中継 QRコード)



稗苗清吉 (自由民主党)

## ワンチームとやま推進に向けた市町村との連携強化

**質問** ワンチームとやまの推進には市町村との連携が重要と考えるが職員交流の実態と今後の方針を問う。

**回答(経営管理部長)** 現在、市町村からは13名の研修生を含め19名の職員を受け入れており、県からは18名派遣している。県は令和5年度までに土木職等技術職員を15名増員し、市町村支援に充てるほか、土木センターと農林

振興センターに市町村支援の窓口を置く。さらに県採用市町村派遣制度(仮称)の実施に向けたニーズ調査を行う。

ワンチームとやまの実現には職員交流により築かれた信頼関係が必要不可欠。積極的な取り組みを評価したい。



(録画中継 QRコード)



藪田栄治 (自由民主党)

## 平成の大合併後、持続可能な地域づくりへ

**質問** 平成の大合併後、地域コンシェルジュの活用も含め市町村と連携して支援を行っていききたい。

**回答(経営管理部長)** 合併特例債の償還、地方交付税の特例算定の終了や老朽化した公共施設への対応など、人口減少、高齢化進行なども合わせ財政運営上の検討が必要。行政サービスのスリム化は避けて通れない。課題を自ら解決する地域づくりが必要であり、県としても

地域コンシェルジュの活用も含め市町村と連携して支援を行っていききたい。

周辺部や中山間地の過疎化対策には、地域コミュニティの活性化は大きな課題。県、市町村一体的な支援が必要。



(録画中継 QRコード)



川上浩 (自由民主党)

平成の大合併で、

2004年に新「砺波市」「南砺市」、  
2005年に新「富山市」「高岡市」「射水市」、  
2006年に新「黒部市」が  
誕生したよ。

市町村の数が  
35から15に  
なっちゃったね。

